

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

宮城県日教組ボランティアを終えて

7月23日（土）

5時00分頃に宿舎に到着。

名古屋教組の3人（乙部先生・加藤先生・横井先生）と合流し、605号室に荷物を入れる。

少し休憩した後、夕食を食べ、今後の活動の説明を受ける。

石川高組、山形高組、茨城教組と一緒に。

7月24日（日）

7時30分ホテル出発。

予定よりずいぶん早く南三陸町立戸倉中に到着。

校舎自体は、きれいであるが、1階部分の窓が半分ぐらい割れている。電気も通っていないようだ。玄関の扉がなくなっているので、ひもで入らないようにしてある。1階床は砂まみれになっている。きれいにするには、時間がかかりそう。

小野寺校長が到着していないので、校舎前の草抜きをする。

小野寺校長から趣旨と活動の内容を聞く。

取りかかりとして2階のピロティの後片付けをすることになる。

天井のライトのカバーをはめないと危険なので、まず初めに天井のライトのカバーをはめる。その後、床のそうじをする。鳥の糞がいっぱいあった。

休憩の間に小野寺校長・菊田先生からの話を聞く。



<教務主任 菊田先生の話>

7月31日に行う卒業式で区切りをつけたい。（現在は登米市の善王寺小学校に間借りしているが、）戸倉中学校で卒業させてやりたい。

3月11日には体育館の準備はできていたが、2時48分に地震がおき、津波がきたため、卒業式ができないままになっていたようだ。（職員室の黒板には、11日と12日の予定が書き込まれている。その途中まで水に濡れた様子が残っている。生々しい…。）

地震が起きたとき、生徒たち（特に女子生徒）はパニックになっていたようだ。

中3の子たちは帰っている時刻であったが、卒業アルバムにサインを書いたりしていたので下校していなかった。（下校していたら、無事だったか分からないようだ…。何が幸いするか分からない）



地震直後は生徒を体育館に避難させようと考えていたが、地震によって体育館の窓ガラスが外れそうになっていたのので、急遽運動場に避難することになった。大きな地震だったので、地域の人々が津波に備えて避難してきた。そこに津波の第一波がきた。その後、第2波・第3波がきてどんどん水位があがった。運動場にいるのは危険だと判断し、運動場の脇の崖をあがって山の方へ避難するようにした。崖はすぐにあがれるような高さではなかったが、何とか多くの生徒と地域住民が避難することができた。

菊田先生と三年生の担任の先生が最後に避難しようとしたとき、老夫婦がやってきた。その老夫婦を避難させようとしているときに津波が押し寄せてきた。あっという間に水位が上がったようだ。

前からと後ろから波が押し寄せてきて渦を巻いて来た波に飲み込まれてしまったようだ。津波にのまれた菊田先生は、何度か浮かんだり沈んだりしながら、奇跡的に木につかまることができ、菊田先生は助かり、山の方へ避難することができた。(肋骨が2本折れていたそうだが…) 三年生の担任の先生は、津波にのまれ、亡くなってしまった。



雪が降っている日だったので、山では、生徒たちが高齢者の方に学生服を貸したり、意識がなくなった人に人工呼吸や心肺蘇生を施したりしていた。

(こうした話を、菊田先生は突然来たわたしたちに詳しく説明してくれた。まるで昔からの知り合いのように…)

＝菊田先生の考え＝

阪神淡路大震災のときは、自分は第三者的な考えだった。実際自分が被害に遭ってみて、他の人の支援がこれほどうれしいものだと思ひました。物だけでなく気持ちの支援がうれしかった。自分の娘も気持ちのもちようが明らかに変わっている。

転校しなければならなくなった生徒が挨拶に来て、涙を流しているのを見て言葉が出なかった。

＝小野寺校長の考え＝

自分も被災者だけど周りもみんな被災者。みんな同じような境遇だから、手を取って協力し合っている。生徒が学校にいるときに被災したので、心と心が通じ合っている。

先生たちも家族のようなもの。

3年生の担任の先生の死を最初に伝えに行った。

他の人からの「けがをしていなければいいのですが」という言葉に、言葉が詰まった。

何とかこの戸倉中で卒業式を行ってやりたい。何人が集まるか分からないけど…。

自衛隊の人が本当によくやってくれたとのこと。九州からきているそう…。橋をすぐに造って道を警備してくれたそう。ただ遭難者の収容は自衛隊の方々でも大変だったそうだった。

廊下の水拭きをした後、3年A組の床にあった物を整理して、掃除をする。みんなで協力すれば、意外と早く作業がすすむ。何とかして戸倉中の先生方の思いを実現できるように自分の作業にも真剣さが増した。どんどんきれいになっていく教室、校舎に、だんだん愛着がわいてきた。明日もここで作業を続けたいとも思った。

1階の床を水拭きしたところで今日の作業は終了。作業を通して私のボランティア精神にも火がついてきた。「人のためみんなのために、今できることを精一杯やりたい」

2時45分の作業を終えたが、もう少し作業をやりたい気持ちだった。

帰りに南三陸町の様子を見た。町のほとんどが壊滅状態だった。鉄筋だけが残る建物、がれきにかこまれた病院があった。ほとんどの物が流されていた。

石巻市にも行った。一階部分が壊れている家やお店。200mほど続く車の山、崩れかけた家など海岸近くは大変なことになっている。海から離れていてもけっこうダメージがありそうだった。町の規模が大きいだけに被害も大きいと思う。



【本日の感想】

初めは、狭い町なので、町全体が原っぱになってるなという印象。でも高台にある戸倉中まで波が来たこと、前からと後ろから波が来たこと聞き、自然の恐ろしさを感じた。

今回のボランティアは、もちろん学校を使えるように整備することだけでも、それによって人の気持ちを救えているのかもしれないと考えるようになった。私個人のすることなどたかがしれているけれど、生徒たちのために卒業式を行ってやりたいという校長先生の思いを実現できるように手助けしたい、戸倉中の生徒の思い、地域の人々の思いを満たしていけるような手助けをしたいと思った。

25日(月)

4時頃 震度5弱の地震があった。やはり大きな余震が続いている…。

5時30分起床 朝食を食べた後、荷物を整え6時30分出発。これぐらい早く出発しないと高速で渋滞してしまうんだそう…。でも、しっかり渋滞しています。

8時前に石巻市の中里小学校に到着。8時15分、職員に紹介されて6年生の教室へ。

6年1組の教室では、算数の復習の勉強のお手伝い。個別指導中心なので、分からない子に勉強を教えた。算数の「がい数」「小数=小数」「分数=分数」などの学習をしていた。個別に指導してもなかなか理解ができない子がいたが、みんなまじめにとりくんでいて教えがいがあった。教室にやってきて、やるべき学習ができれば帰って行くシステムなのだろうか？出席を確認しているようではない。明日も同じように行うようなので、今日以上にてきぱき教えたいと思う。今日は初めてだったので、こちらが子どもたち、先生方との距離感を気にしていた感じ。



午後は、プールの監視のお手伝い。1時からのプールは、暑かったので、30分ぐらいプールに入った。後半は、曇り空になり、プールには入らず。明日は、暑くなくても入ろうと思う。帰りにはゴーグルを買った。

7時に夕食を食べ、今日の出来事を報告し合った。戸倉中は、ずいぶん作業がすすんだとのこと。2日目にワックスを塗って、卒業式で使うイスを志津川中から運んできたそう。

今日の戸倉中には小野寺校長と教務主任、その他2人の先生(合計4人の先生)が参加したそう。先生方の「卒業式を生徒が学んだこの戸倉中で行ってあげたい」という卒業式への思いを垣間見た感じ。生徒が喜んでくれるといい。私たちは、先生方が喜んでくださるので、とてもやりがい・達成感を感じている。

小野寺校長と教務主任の先生は、こんなに早くきれいになるとは思っていなかったと話していたそうだ。学校の先生だけでなく、ホテルの方々、イオンの店員さんなど、町の人々がボランティアの方々を迎え入れている感じが伝わってくる。その分自分は活動できているか反省しながらこの文を書いている。

開北小学校の教務主任の先生が自分の家が流されていく様子をビデオに撮ったものを昼の休憩時間に見せてくれたそうだ。

26日(火)

昨日に引き続き、中里小にボランティアに行った。6年生に入って算数の学習の補助をした。6年1組では、分からない子について問題の解き方を教えてあげたり、答えのチェックをしたりした。後半の6年2組では、計算問題の〇つけを担当の先生にお願いされ、子どもの解いた問題をみた。「ここが間違っているよ。」「あまりは、小数点を戻して考えるんだよ」などと、間違えた問題に対して、解き方を教えると子どもたちは、間違えた内容を理解し、再度やり直して持ってくる事ができていた。学習後担任の先生と話をする



機会があり、そこで担任の先生から「地震のときから5年の学習が止まり4月もだいぶ遅れて始業したので、学習全体が遅れている。特に算数の学習が遅れているんです」との話聞いた。確かに子どもたちの様子を見てみると、学習の仕方をきちんと教えればすぐに理解ができていた。繰り返し練習をすればきちんと理解できると感じた。学習の遅れを心配する先生の手助けをこれからいろいろな形でできるとよいのだけれど…。



学習中や学習後の先生からの話から、昨日とは違い、担任の先生も私のことを受け入れてくれているようで、うれしく思った。

学習後、学校内の草抜きを行った。草抜きをした場所の8割程度のでき。あと30分あったら全部できたと思われるのだけれど…。

午後は、水泳指導の補助をした。子どもたちとのふれあいが多くある活動なので、自分の学校に戻っているような気分だった。中里小の子たちは、人なつっこいので、いろんな子から声をかけられる。プールでの活動も子どもたち思い思いに好きなことをするので、刺激を求めているのだろうか？こちらから声をかけると明るい声で反応してくれる。ずっと入っていると疲れてしまうので、水泳時間の半分プールに入り、一緒に遊んだ。



帰り、石巻市の海沿い、特に被害が大きかったところをバスで見て回った。水が3階付近まで達していたらしく、住宅街に家が残っていなかった。表札だけが残っていたり、鉄筋だけが残っていたりする家がある。無惨な状況に言葉を失う…。「すごい…」としか言いようがない。

戸倉中は、ワックスをかけ、きれいにピカピカになっているそう。茨城県教組の荒木さんの写真を見るととてもきれいに準備がすすんでいた。いい卒業式ができることを望む。

夕食後、急に反省会(第2タームの人全員で)を行うことになった。日教組の大杉先生がみなさんの話を聞いているうちに涙声になった。ボランティアを行える状況にするまで折衝などの仕事にいろいろたいへんなことがあったんだなあ…と思った。

【反省会での気持ち】

- こういう機会を設けていただけたことに感謝している。
- 他の教組の人と交流できたことがよかった。
- 被災した人から元気をもらえた。
- 今回したこと、感じたこと、見たこと、考えたことを伝えていくことが大切。
- 第3タームの人に引き継いでほしい。
- 7月31日に行われる戸倉中の卒業式の様子を知りたい。

(今回ボランティアに参加して感じたこと・考えるようになったこと)

名古屋を出発するときは、自分に何ができるのかと思うことがあったが、現場にきて少しでも役立つと考えることを自分なりの方法でとりくむことが重要であることが分かった。本当に役に立っているかは分からないが、「遠くからきて支えたい」「被災地のために何かしよう」という気持ちが伝わるのが大切であることが分かった。現地の方は、それがうれしいのかもしれない。現地の人と話をすることで、多くの人に今の現状を伝えてほしい、現場の気持ちを伝えてほしいという気持ちを感じ取ることができた。今の自分ができることは、こうした現地の方の気持ちを少しでも多くの人に伝え、広げていくことだと感じた。

このボランティアの活動を通して、自分自身大きく成長することができたと思う。人のために何かしようという思いで始まったボランティアであったが、今、活動を終えて、振り返ってみると自分のためのボランティアだったのかもしれない。こうした機会を与えていただいたことに感謝したい。

